

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇
事業所名	小規模多機能型居宅介護川崎	管理者	目黒 聡

法人・事業所の特徴	H24年5月に開設。1階に小規模、サテライト型特養、地域交流スペース、キッズルームが併設されている。地域の方も気軽に利用できるスペースがあり、フリーカフェを行なっている。地域の中の施設としての特性を活かせるよう、利用者の想い、希望、ご家族や多職種との連携を図りながら、生活が継続できるよう取り組んでいる。
-----------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	3人	1人	1人	1人	1人	2人	0	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●より多くの情報を把握する為に、新規事前訪問時には、継続してケアマネジャーの他に介護職員の同行、医療ニーズが高い方については看護師による同行訪問を行う。 ●今年度新たに作成した情報ツールとしての「情報シート」を今後も活用し、ご利用者の状況把握や情報共有を行う。(新たに5個以上の情報を収集し、ケアに繋げていく。) ●今後もご利用者・ご家族へのアンケートを継続して行う。意見や要望によって変更したものについては、再度聞き取りや評価を行い、サービスの質の向上に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規事前訪問時は、ケアマネジャーの他に管理者又は介護職員の同行訪問を実施した。住環境や、訪問内容等より多くの情報を得られ、スムーズに利用開始に繋げる事ができた。看護師との同行訪問についても、医療ニーズの高い方がおられた為、実施し訪問看護との連携も図った。 ●情報シートを活用し、一覧にしたことで職員間でも効率的に共有できるようになった。その情報を基にケアに繋げることができた。新たな情報を収集し追記していったが、5個以上の情報を収集できた方はわずかだった。 ●ご利用者・ご家族からの要望は主に日々のサービスについてのものであったが、その都度対応・変更することをご利用者・ご家族に寄り添った支援に繋がっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●他の事業所もそうだが、新型コロナウイルスの影響で実施できる状況ではなかった。「はい」ではないのかなと思う。 ●新型コロナウイルスに対応されていると感じた。 ●項目ごとに今後こうしたいと言うところがしっかりと示されているので「はい」にした。 ●今後も、以前のような状況には戻らないと思うので、状況に合わせて計画も変えていかなければいけないと思う。 ●事業所自己評価の「よくできている」～「できていない」の各チェック項目で職員間で認識の差があるようなので、できていると評価した職員からできていないと評価した職員に対して認識の共有をした方が良いのでは。 ●外部研修へはできるだけ参加できるよう配慮しとあるが、Zoomでの研修を行っているところもある為、介護業界もZoom研修などとしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「情報シート」を活用し、新たな情報を引き出せるよう状況把握や情報共有を行ない(新たに5個以上は情報を収集できるようにする)、感染対策を徹底した上で個々に合わせたケアに繋げていく。 ●事業所自己評価の改善計画の進捗状況を毎月の事業所ミーティング時に職員間で共有・確認し、計画を進めていく。 ●新型コロナウイルス感染防止対策に対応したりリモートでの方法も活用しながら外部研修への参加をできるよう配慮していく。

<p>B. 事業所のしつらえ・環境</p>	<p>●センターの鍵は日中はかけない方針のため、来所された方が入りやすい(インターホンを押してもらえよう貼り紙の掲示)雰囲気に配慮したり、防犯の視点から、来所された方へ積極的に声をかけていく。</p> <p>●地域交流スペースやキッズスペースの活用方法についてのPRポスターを作成し、近隣の保育園・幼稚園や小中学校等、近隣施設へ掲示依頼を行い、地域住民へ情報発信を行う。</p> <p>●フリーカフェの案内板の大きさ・設置場所の検討を行う。中庭のスペースを利用し、地域の方の休憩所としても活用して頂けるようにベンチの設置を行う。</p>	<p>●来所された方が入りやすいよう、インターホンの掲示を行い、積極的に声をかけるよう心掛けた。防犯に繋がっているのかまではわからないが、職員間での情報共有の意識は出来ていた。</p> <p>●各種行事が行えなかった為、地域交流スペースやキッズスペースの活用についてのPRは出来なかった。回覧板にて川崎新聞を発行したが、現在センターへの来館は制限があり、積極的な近隣の保育園・小中学校・近隣施設へのポスター掲示は出来なかった。</p> <p>●感染対策の為、来館が制限されていた為、フリーカフェの案内版を設置しなかった。大きさ・設置位置の検討については今後の状況をみながら検討していく。今年度春先に、中庭のスペースに地域の方の休憩所としてご利用いただけるようベンチを作成・設置し、実際に利用されベンチで休まれている方もいた。</p>	<p>●設計の問題だが、入口が狭いのが入りにくい印象。また、入口が暗い感じもする。</p> <p>●居心地が悪い印象はなかった。</p> <p>●地域交流スペースしか入ったことがないが、そこでは不快な音や臭い等は無かった。</p> <p>●訪問する機会は少ないですが、居心地の良い空間に「なっている」期待を込めて「はい」につけさせていただきました。</p> <p>●コロナ禍でもあり、今年度の計画を具体的に取り組むのは難し状況だったと思う。ただ、計画に沿って取り組もうとされていた姿勢は感じられた。</p> <p>●今後も、以前のような状況には戻らないと思うので、状況に合わせて計画も変えていかなければいけないと思う。</p> <p>●白い素敵なベンチが設置され、屋外の地域交流スペースが完成。事業所利用者も地域の方と関わる場所になっていくのではないかと期待が持てます。</p>	<p>●センターに来所された方が入りやすいよう、玄関インターホンの掲示を分かりやすいものにし、積極的に声を掛けるようにする。センター内の環境を見直し、季節感や居心地の良い空間と感じて頂けるよう、安全性を考慮した環境作りを行う。</p> <p>●新型コロナウイルスの感染状況や感染防止対策の状況により、センター内(地域交流スペースやキッズスペース)の活用が困難な状況も想定されるため、状況に合わせたPRポスターの作成・回覧での情報発信を行う。</p> <p>●中庭のスペースを活用し地域の方の休憩所として活用して頂けるようベンチをも一つ増やして設置する。</p>
-----------------------	--	--	---	--

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も継続して「まちなね」を年間で6回以上開催する。また各種行事も行っていく。 ●その都度センターの活用方法や、今後の活動予定の情報発信をすることで、より多くの地域の方に知って頂けるよう働きかけることと、お茶のみの時間を設けて、話しやすい関係性を作る。 ●回覧板(広報誌)での告知の際は、相談しやすい場所となれるよう、センターについての説明、介護に関すること・今後の心配事等分かりやすく記載した文書を入れる。 ●コミュニティーセンターに、センターのパンフレット等を置かせていただくことで、一人でも多くの方に知って頂くきっかけ作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルスの関係で、「まちなね」については、今年度1度しか開催することができなかった。開催の際、三密を避けるため、回覧範囲を狭めて告知したが、地域の方は参加されなかった。 ●「まちなね」を1度開催したが、地域の方も参加されなかった為、その場での情報発信や話しやすい関係性作りは出来なかった。 ●回覧を見て施設があることをご存知であった地域の方より、相談を頂いたケースがある。その後、地域包括支援センターへ繋げている。 ●上半期に1度広報誌「川崎新聞」を発行し回覧したが、新型コロナウイルスの関係にて、積極的な内容は掲載で出来なかった。 ●サポートセンターへの来館に制限があった為、コミュニティーセンターへパンフレット等を置かせて頂く事は出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員の皆さんの挨拶については、良い印象を持っています。運営推進会議で訪れた際に、施設職員はしっかりと挨拶できていたと思います。 ●築何年か経っているので、少しずつ知っている人は増えていると思う。 ●サポートセンターと言うと、「あーあそこね」と言う人が増えた。 ●困りごとがある時に、ここで相談できるとは思っていないのでは…。 ●コミセンではパンフレットを置いておいても意外と持って行かない様子。ポスターの方が良く見られるようだ。 ●コロナ感染対策で、パンフレット等を撤収して置かないようにしているところもある。 ●福祉サービスが入っている建物とは知っているが、小規模サービスがあることを知っている方は少ないのではないかと。 ●コロナの影響の為、活動制限される中、何が出来るか、来年は「紙上まちなね」を回覧板で回して情報発信する。対策を行った上での「まちなね」開催等ができるのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルスの感染状況やサポートセンターへの来館制限に対応した地域啓発活動「まちなね」を行う。(紙上まちなねとして回覧板での情報発信も含めて検討する) ●回覧板での情報発信の際に、相談しやすい場所となれるよう相談窓口として知っていただけるよう分かりやすく記載した文章を入れる。 ●コミュニティーセンターにて告知等させて頂く際には、ポスター掲示にてお願いしていく。
-----------------------	--	--	--	---

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も継続して回覧板等で情報収集を行い、コミュニティセンターでの各種行事や、地域での行事には、ご利用者のご希望に応じてお連れし、参加して頂く。 ●ご利用者の今までの地域との関わりを把握し、地域との関係性も切れる事のないよう、訪問・送迎時や外出時に関わりを持てるようにしていく。 ●年間を通して、安全を確保した上で外出の機会を計画・実行していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度は新型コロナウイルスの関係にて各種行事も中止になり、参加することができなかった。 ●訪問・送迎時に、隣近所の方と接触した際には、ご本人が関わりを持てるよう努めた。 ●季節に合わせて、可能な限り外出ドライブやセンター周辺の散歩・日光浴を行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●意識的に事業所内に閉じ込めていることはないと思う。 ●地域の心配な方がいた場合には、関わりますという姿勢が大切。 ●必要最小限でも、忙しい中日光浴や外出ドライブ等実施され喜ばれているということなので、できる限りのことを取り組んでほしい。 ●他で、不登校の子供に関わっているところがあった。高齢者だけでなく障害・子どもと幅広い世代の地域の方を見ていてもらいたい。 ●「社会的処方」という考え方の中では、地域での人のつながりを利用しますが、今年は地域はおろか県外の家族とのつながりも大変な中、野菜・花等自然とのつながりは大きななぐさめになったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●回覧板等で地域の情報収集を行い、コミュニティセンターでの各種行事や地域での行事には、ご利用者のご希望に応じて新型コロナウイルスの感染対策に十分配慮し、参加していただく。 ●新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、ご利用者のご希望に応じて、安全を確保した上で、外気浴や家庭菜園・外出ドライブ等の機会を計画・実行していく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も専門職の方にも運営推進委員として参加して頂くことで、多方面からの情報収集・情報交換を行い、多職種間での連携を図っていく。 ●事例検討までは難しいが、地域の中での心配な方等については運営推進会議の中で情報を把握し、必要に応じて各種機関と連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度も中央病院・歯科医の方から運営推進委員として参加していただき、様々な専門的な意見を頂くことができた。実際に小規模ご利用者で訪問歯科の利用につながるケースもあり、連携を図ることができた。 ●運営推進会議の中では、今年度は地域の心配な方の話しも上がることがはなかったが、今後話が上がるようであれば、必要に応じて各種機関への繋ぐ連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で心配である方等の事例検討までは行われていない。 ●実際にできていなくても、取り組むという姿勢があれば良いのではないかな。 ●今までの取り組み事例としては、コミセンより文化祭の作品をお借りしたり、演奏会に参加させて頂いたりしたが、今年は出来なかった。が取り組もうとされている姿勢は感じられる。 ●昨年度、委員の方よりベンチを設置してはどうか？との意見を頂き、今年度設置に至った。 ●来年度は運営推進会議もぜひZOOMで。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も専門職の方に運営推進委員として参加していただき、地域の中での課題等、多方面からの情報収集・情報交換を行い、多職種間で連携を図っていく。 ●運営推進会議で出た提案や意見を、事業所ミーティング時に検討し事業所運営に活かしていく。実施した際には、運営推進会議にて報告する。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所の防災訓練に運営推進委員や地域の方にも参加して頂く。また、防災訓練の結果を報告し、情報提供や防災意識の共有を行う。 ●引き続き、地域の合同行事や合同防災訓練にも積極的に参加していく。 ●災害時には、一時的な福祉避難所として地域の必要な方に活用して頂けることを、センターのPRポスターに載せ、地域の方へも情報発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度は新型コロナウイルスの関係で運営推進会議と合わせての防災訓練は出来なかった。今後の防災訓練については、結果を報告し、情報提供や防災意識の共有を行っていく。 ●今年度は川崎の合同防災訓練が中止となった為、参加できなかった。 ●センターのPRポスターはまだ作成できていない為、作成の際には災害時に一時的な福祉避難所としてで活用いただけることを発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度はコロナの影響でできていないが、今まで毎年やっていたし、災害時の一時避難所としてポスターも作るということなので下半期に期待します。 ●実際に昨年度の水害の際に、地域の方の受け入れをした実績があるので、頼りになると思います。 ●昨年の水害の際に地域の方を受け入れた件は知らなかった。ぜひ、地域の方々を知って頂けるようポスター作成や情報発信をお願いしたい。 ●何かあったら、サポートセンター川崎へと浮かぶ、知られていることが大事。 ●コミセンも避難所となるが、災害時には感染症対策も十分に配慮していかなければならない。 ●防災マニュアルの中に、今回の新型コロナウイルス対策、インフルエンザ等の感染症、クラスター対策も必要なのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●センターの防災訓練については、新型コロナウイルスの状況により、運営推進委員の方に参加していただくことが難しいことも想定されるため、防災訓練の様子を記録に残し、結果を運営推進会議にて報告し、評価頂く。 ●地域の合同行事、合同防災訓練等情報収集し、可能な限り参加していく。 ●災害時には、一時的な福祉避難所として地域の必要な方に活用して頂けることを、センターのPRポスターや回覧に載せ、地域の方へも情報発信していく。
----------------------------	--	--	--	---